



●異文化交流会 (2023.2.18)

まどかぴあ小ホールにて、スリランカをテーマに開催しました。今回の企画は講演会と伝統舞踊のパフォーマンスでした。講演の前には、献灯式や会場を清めるための踊りが行われ、スリランカの文化に触れる貴重な機会となりました。

スリランカ民主社会主義共和国

首都：スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

人口：2,216万人 (2021年)

公用語：シンハラ語、タミル語

主要産業：紅茶など



シーギリヤの王宮遺跡

講演「九州スリランカ国際文化交流 in 2023」



大阪のスリランカ名誉領事館より、D. W. アルッガマゲ名誉領事を講師に迎え、スリランカの文化や日本・九州との交流について講演していただきました。両国の深い関係や複数の民族・宗教が共生するスリランカ社会の様子、「微笑みの国」と呼ばれる所以、初めて来日した際に感じたことなどが、ビデオ等(※)を用いて語られました。来場者からは、スリランカの国旗の意味や教育制度などについて多くの質問が出、関心の高さがうかがえました。

後半は協会と縁の深いあゆみさんに、スリランカの行事や料理、観光スポットなどの魅力を熱く語っていただきました。

パフォーマンス「スリランカの伝統舞踊」

ラサディカさんに踊っていただきました。国際交流フェスティバルで披露したファイヤーダンスとは異なり優美で幻想的ともいえるもので、スリランカの舞踊のまた別な魅力に触れることができました。



【来場者の感想】

・話がわかりやすかった ・これまで知らなかったスリランカと日本の絆を知った ・閉会後もホールの外で見送ってくれた領事の温かいお人柄！ ・あゆみさんの熱いスリランカ愛が伝わってきた。スリランカに行きたくなった ・踊りがすごくきれい ・講演の前の儀式は初めて見た。異文化を感じた

***** (※) 講演の中で資料として紹介されたビデオの内容*****
第2次世界大戦後のサンフランシスコ講和会議で、日本に対して厳しい処置を求める声上がる中、セイロン(今のスリランカ)のJ. R. ジャヤワルダナ代表が「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む」という仏陀の言葉を引用して演説し、万雷の拍手を受けた。その後、日本は分割統治や多額の賠償請求を受けることなく、国際社会に復帰することができた。ジャヤワルダナ氏は初代大統領(大統領制移行後)を務め、没後「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」との遺言に従って日本の女性が角膜移植を受けた。

●ことばの交流ひろば

2023 年に入ってからも様々なテーマで交流しました。

新年の伝統行事



日本の遊び



学校事情

- 1月7日「新年の伝統行事」
- 14日「成人式」
- 21日「日本の遊び」
- 2月4日「節分」
- 11日「年号」
- 25日「結婚」
- 3月4日「防災教室」
- 11日「学校事情」
- 18日「茶話会」

毎回テーマを設けていますが、話が弾んでテーマからどんどん離れてゆくことがよくあります。「結婚」では新規に参加された方が自己紹介していると、日本に来るにはニカラグアからは2日かかった、南アフリカからは4日もかかったと、参加者各々の自国から日本までの移動事情に話が広がり、更に、タクラマカン砂漠が如何なる気象条件によって乾燥化形成されたかについての解説にまで展開しました。その解説を日本語勉強中のタイ人 J さんの日本語で聞けるのが「ことばの交流ひろば」の醍醐味です。「学校事情」の回でも国際移動の話は再起し、パキスタン人 S さんは4時間かけてスリランカに行き、乗り継ぎに5時間を要して日本へ出発、そこから更に9時間かけて成田へ着いたそうです。S さんはとても明るい女性で、「パキスタンの美味しい料理は何ですか。」との質問には「私が作る料理の全てよ」とウィットのある答えを返してくれ、皆で笑いました。

🌸2022 年度、「ことばの交流ひろば」での学習者は大野城市の様々なイベント参加や国際交流協会主催の「講演会」講師として活躍しました🌸

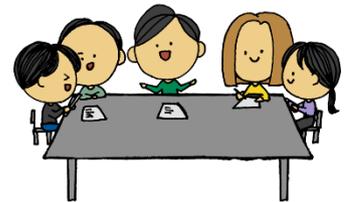
(5/3) 大野城市市制 50 周年記念 博多どんたくパレード参加	カヴィア、朱 尚萍
(7/28) 「中国の春節」講演会 講師	朱 尚萍
(8/12) 大野城市こども・若者政策課 「グローバル体験プログラム」参加	マ・ゾンペン、MAURY AURORE, MAURY PIERRE
(9/10) 「まどかマルシェ」スリランカ物品販売	9/10 日本語学習者全員参加
(9/24) 「大文字まつり献火式」アテンド	李 寒羽、シュルエイ、マ・ゾンペン

2022 年度の振り返りと今後の活動

2月15日、総合福祉センターにて第2回運営委員会が開かれ、今年度の活動を振り返り、また来年度の活動について話し合いました。今年度は新しい試みとして、「文化講座」「国際交流フェスティバル」「異文化交流会」の3部門を統合して「異文化交流」とし、また「英語道場」を開催しました。国際交流フェスティバルは3年ぶりに従来に近い形での開催となり、市制50周年と西鉄電車高架開通を祝うまどかマルシェにも参加しました。国際大運動会や講演会も開催し、ことばの交流ひろばは受講生が増え、振り返ればイベント盛りだくさんの1年でした。

その中で、事業を行う際に「外部との連絡がスムーズに取れなかった」「準備が大変だった」「せっかく参加してもすることがなかったり、何をしたいのかわからずとまどったりした」などの反省点が挙げられました。これらに対し「前もって事業の詳細を把握する必要がある」「スタッフ会議を充実させて役割を明確に決めるべき」などの対策案も出ました。

来年度は、ウガンダ サッカーボールドネーション結果報告会（総会后）、国際交流フェスティバル、国際大運動会のほか、長らく休止していたオイスカ訪問や US-JAPAN プログラム（※下記）の学生との交流、バスハイク、パーティー、TOMORROW のキャンプなどの活動案が出されています。少しずつ物事がコロナ禍以前に戻りつつあり、なつかしい顔や新しい友達と出会える機会も増えていきそうです。皆様、どうぞふるってご参加ください。



US-JAPAN プログラム



2011年3月11日の東日本大震災後の復興支援として、日米両政府は教育・異文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指し次世代のリーダーに投資する「TOMODACHI プロジェクト」を2014年に立ち上げました。これは、一人一人に潜んでいる可能性を引き出し、応援するプログラムです。この基金を得て「IN Vermont プログラム」が企画できました。

その後、日米財団の資金援助を2年間得ることができ2016年迄このプログラムを続けることができました。アメリカとの交流では、2015年から「US-Japan Technical Connections Inc.」の「US-Japan in Onojo」のプログラムを受け入れて、アメリカバーモント州との交流を続けています。2019年末におきた「コロナウイルス感染症拡大」のパンデミックを受け中断せざるを得なくなりましたが、2022年1月に「on line 交流」の形を取り入れ Vermont 州とは現在もつながっています。

日米両国の往来が緩和され、幸い今年は楽しい交流のスタートの年となりそうです。





INFORMATION CORNER

Onojo-city International Exchange Association

大野城市国際交流協会 第25回 総会

日時： 2023年4月15日(土) 10:00

会場： 大野城まどかぴあ 3F 306会議室

総会終了後リビングストーン理事による「サッカーボール Donation 報告会」が行われます。日本とは異なる環境でサッカー練習をしているウガンダの少年達のサッカーボールを受け取り、喜ぶ様子を映像を交えて、話をされます。是非、ご参加ください！



「ことばの交流ひろば」
開講日：2023年4月8日

「US-JAPAN プログラム」
歓迎会：2023年4月22日(土)
歓送会：2023年4月30日(日)

Other organizations News & Event



オイスカ海外研修生研修修了式

2022年度オイスカ海外研修生修了式が2023年3月18日に行われました。オイスカ西日本研修センターの研修を終了した研修生・OB研修生の9名の皆さん、おめでとうございます!!

帰国後の母国での皆さんの活躍を期待しています。

▶入所式

👉修了式

2023年度にはOISCAとの楽しい交流再開の予感がします ❤️❤️

編集後記

先日ビギン新聞のバックナンバーを読み返していると、「コロナ禍の3年間」がしみじみと思い出されました。感染防止のための制約も徐々に緩和され、2022年度は市制50周年でもあり忙しい年だったと感じます。2023年度はいよいよUS-Japan In Onojoが復活、他にも多くの活動案が出されており楽しみです。(辻)



大野城市国際交流協会事務局： 市役所3階 コミュニティ文化課内

TEL:092-580-1812

FAX:092-573-7791

email: begin@city.onojo.fukuoka.jp